

ふくおかのふくし

Welfare of Fukuoka



今号の内容

■特集 平成30年社会福祉大会	p 1
■ねんりんピック富山大会 成績報告	p 4
■第18回 ねんりんスポーツ・文化祭	p 5
■赤い羽根共同募金	p 7
■キラリ☆地域のふくしごと	p 9
■ふくふくInfo	p 10

赤い羽根応援大使(上林選手・石川選手)
による募金呼びかけの様子(関連記事8頁)

じぶんの町を良くするしくみ
赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の
配分金を受けて発行しています。

ふくおかのふくし 171号 発行所／福岡県春日市原町3丁目1番地7 福岡県総合福祉センター(クローバーブラザ)内 社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会 TEL(092)584-3377 FAX(092)584-3369 発行日／2018年(平成30年)12月15日 編集発行人／小川弘毅 印刷所／株式会社 日報

平成30年度

<http://www.fukushihoken.co.jp>

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



対象となるボランティア活動

- ◆グループの会則に則り企画、立案された活動であること
(グループが社会福祉協議会に登録されている必要があります。)
- ◆社会福祉協議会に届け出た活動であること
- ◆社会福祉協議会に委嘱された活動であること

※活動のための学習会または会議などを含みます。
※自宅などとボランティア活動を行う場所との通常の経路による往復途上を含みます。(自宅以外から出発する場合は、その場所と活動場所への往復途上となります。)

保険金をお支払いする主な場合

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをして通院した。(ケガの補償)
- 活動に向かう途中、交通事故にあって亡くなられた。(ケガの補償)
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になつて入院した。(ケガの補償)
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花びんを落としてこわした。(賠償責任の補償)
- 自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

保険金額・年間保険料(1名あたり)

	Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金 1,040万円 後遺障害保険金 1,040万円 (限度額)	1,400万円 1,400万円 (限度額)
手術保険金	入院保険金日額 6,500円 入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	10,000円 100,000円 50,000円
賠償責任の補償	通院保険金日額 4,000円 特定感染症の補償 上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ 葬祭費用保険金(特定感染症) 300万円 (限度額)	6,000円 5億円 (限度額)
年間保険料	基本タイプ 350円 天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波) 500円	510円 710円

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償します(天災危険担保特約条項)が、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

- 行事参加者(主催者[個人]を含みます。)全員のケガを補償
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

送迎サービス補償(傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス
(公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業
- 地域福祉サービス
- 介護保険サービス

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一緒にして締結する団体契約です。

(SJNK17-16975 2018.1.9作成)



地域ぐるみの防災

同士の力が必要だということです。まずは、自分が助かるための準備をしましょう。それから、近所の人への声かけや、地域の学校や事業所などを巻き込んだ日ごろの訓練の積み重ねが活きます。

自分たちの地域に「おせつかい」をもつともつと増やさないといけないと思うんです。**防災に特効薬はあります**が、**支援の要は地域です**。ひとりが主体となり、どんどん地域資源を巻き込みながら、地道かつ丁寧に、災害に強い地域を作つていければと思ひます。

ま
と
せ

こつた時に、「あの時に家具止めしてあげたおばあちゃんは大丈夫かな」と気にかけてくれるかもしない。これは地域の仲間が増えたということですよね。防災も福祉も、地域の関係性は縦割りではないので、互いが連携することなどでどんどんいい影響が生まれます。

社会福祉の向上に貢献された皆様の表彰を行いました。

本大会では、県知事・県社協・県共募、それぞれから表彰状・感謝状の授与を行いました。また、赤い羽根キャッチフレーズの最優秀賞の表彰も行いました。受賞された皆様、誠におめでとうございます。

福岡県知事表彰

民生委員・児童委員	101名
社会福祉事業団体関係者	7名
社会福祉事業施設従事者	48名
ボランティア等労働者	25名
ボランティア協力校	1校

福岡県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉事業特別功労者	174名
民生委員・児童委員特別功労者	46名
優良社会福祉事業施設	12施設
優良社会福祉協議会	2校区社協

福岡県共同募金会会長表彰

会長表彰	16名 4団体	会長感謝	84名 18団体
優秀地区	21支会		

平成30年度赤い羽根キャッチフレーズ 入選作品・特別賞 最優秀作(1作品)、優秀作(12作品)、特別賞(24校)



平成30年社会福祉大会

大規模災害に備えて ～今、私たちができること～



福岡県社会福祉協議会、福岡県共同募金会は、去る10月22日(月)に福岡国際会議場(福岡市)で「平成30年福岡県社会福祉大会」を開催しました。本大会は、社会保障・社会福祉制度の現状と課題を踏まえ、誰もが安心して暮らせる元気な地域づくりに取り組んでいく契機として開催し、県内の社会福祉関係者1,100名余に参加いただきました。

総会・式典に先立ち、認定NPO法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之氏(写真)に記念講演をいただきました。

起くるかわからない状況の中で、私たちは何をすればよいのか、ということについて、栗田氏の豊富な経験を踏まえてお話ししていただきました。以下、その概略を報告します。

大阪北部地震、被災地の現状

今年も災害が頻発したことは御承知のとおりですが、その中で、大阪北部地震は「見えない災害」、「取り残された災害」と呼ばれています。この地震によって、屋根の瓦がずれ、雨漏りが発生するような住宅が約4万5千棟ありました。屋根の補修工事も1年

地に分散したりと、現在も人員不足の状況が続いている。このような状況の中、今、現地では技術系のボランティアが中心となり、ブルーシートのかけ方の講習会を開催しています。一人でも多く、こうした担い手を増やしていくかないと、この先どれだけ災害が起ころるかわからないのです。

避難を判断するタイミング

災害時には、たとえば激しい雨の中で避難し、途中で渦流に足をとられ流れされてしまった方もいれば、逆に、避難しなかつたために自宅で溺れてしまった方もいます。「逃げなきやよかつた」と「逃げればよかつた」、この避難の判断というのは、非常時にはとても難しいです。

水位情報について、昔は「特別警戒水

避難を判断するタイミング

災害時には、たとえば激しい雨の中で避難し、途中で渦流に足をとられ流れされてしまつた方もいれば、逆に、避難しなかつたために自宅で溺れてしまつた方もいます。「逃げなきやよかつた」と「逃げればよかつた」、この避難の判断というのは、非常時にはとても難しいです。

阪神・淡路大震災では、3万5千人の方々が生き埋めになりましたが、そこで多くの命を守ったのは地域の力です。もちろん自衛隊、消防機関も不眠不休で動いてくれましたが、残念ながら間に合わないことも多いのです。データとして、5時46分から6時までのたった15分足らずで、崩れた住宅の下敷きになるなどして96%の方々が亡くなっています。しかし、この僅か15分の間に、地域の力なら助けられる命もあるんじやないでしょうか。まずは自分自身がしっかりと災害に備え、自らの命を守り、助ける側に回れるようになります。そうした日頃の心がけで、その地域は少しでも被害を減らすことに繋がっていくのだと思います。

自分の命を守り、地域を守る

「位」という名称でしたが、平成18年から「避難判断水位」という名称に変わりました。分かりやすく、避難という文言が入っています。まずは避難判断水位という情報が出た段階では、避難しないといけない水位になっている、という状況を私たち自身がしつかり認識しなければなりません。



弓道が全国準優勝!! 福岡県選手団140名が大熱戦!!

11月3日から6日までの4日間、富山県で第31回全国健康福祉祭(ねんりんピック)が開催されました。日頃からスポーツや文化活動を通じて生きがいづくり、健康づくりを実践している全国の元気な高齢者が集い、各種目で熱戦を繰り広げました。福岡県からは、選手・本部役員を合わせて21種目・140名が派遣されました。



11月2日、福岡県庁で結団式が行われ、大曲 昭恵 福岡県副知事と小川 弘毅 福岡県社会福祉協議会会長から選手へ激励の言葉が贈られ、福岡県選手団は士気高く富山県へ出発しました。

総合開会式は富山県総合運動公園陸上競技場(富山市)で行われ、全国67選手団17,328名が笑顔で旗や帽子を振りながら、元気はつらつと入場行進を行いました。また、歓迎アトラクションでは富山県内の子どもたちが踊りや演奏等のパフォーマンスで会場を盛り上げ、大会の幕開けを華やかに彩りました。

各種目の交流大会は富山県内の15市町村で開催され、どの種目でも、選手のみなさんが力強くプレーしながら、全国から集まった参加者と交流を深める様子が印象的でした。

福岡県選手団は、全国準優勝に輝いた弓道「福岡県チーム」や、ダンススポーツのタンゴで3位になった堤ペアをはじめ、各種目の選手のみなさんが日頃の練習の成果を十分に発揮し、元気な福岡県を全国にアピールすることができました。

福岡県選手団の主な成績

種 目	チーム・個人名	表彰項目	成 績
弓 道	福岡県チーム (高齢者賞 副島 多恵子 氏)	準優勝	第2位
ダンススポーツ	個人 堤ペア	第3位、第4位	タンゴ3位、ワルツ4位
囲 碁	安東 良寛 氏	優秀賞	個人戦15位
テニス	チーム福岡	優秀賞	第1位グループ11位
卓 球	福岡県チーム	優秀賞	第1位グループ13位
マラソン	柳川 喜代子 氏	入賞・高齢者賞	70歳以上3km7位入賞
ソフトバレーボール	宮若桜龍 (最高齢者賞 佐藤 涼代 氏)	第3位	第1位グループ 3ブロック3位
サッカー	福岡六十雀フットボール倶楽部	第3位	Kブロック3位
ソフトテニス	とびうめ	優秀賞	第4位グループ1位

平成30年福岡県社会福祉大会では、県内社会福祉関係者の総意をもって、下記「大会宣言」・「特別アピール」・「実践申合せ事項」を採択しました。「特別アピール」については、厚生労働省、福岡県、県内市町村に対し、本大会会長名で要望いたしました。

◆大会宣言

我が国は、少子高齢・人口減少社会というかつてない厳しい社会・経済課題に直面しています。さらに、地域においては、支え合いの基盤の弱体化等により、社会的孤立、生活困窮など様々な地域生活課題が顕在化しています。

国においては、こうした諸課題に対し、制度・分野ごとの縦割りや支え手・受け手という関係を越え、地域住民や行政・福祉関係者等、地域の多様な主体が連携・協働する「地域共生社会」の実現を、今後の福祉改革の基本となることが示されました。その実現に向けては、地域力の強化や包括的な支援体制の整備が求められるとともに、多様な福祉人材の確保、育成、定着のための施策の拡充が必要不可欠となっています。

また、近年、大規模な自然災害が各地で頻発しており、福岡県においても平成29年、30年と連続して豪雨災害が発生し、大きな被害に見舞われました。防災・減災、そして被災後の復旧・復興に備えるためにも、地域での日常的な取組が重要となっています。

このようなときこそ、社会福祉関係者は、これまでの経験と実績を活かし、それぞれの立場で質の高い専門性を発揮することでその存在意義を示すとともに、地域福祉の推進役としてその役割を果たすことが重要です。

本大会において、私たち社会福祉関係者は、これまで以上に相互の、そして多職種、他機関・団体との連携強化に努め、国・県・市町村と協働して、すべての人が安心して暮らすことができる福岡県づくりに一致団結して取り組むことを誓い、ここに宣言します。

◆特別アピール

現在、我が国では、福祉人材の確保・定着が喫緊の課題となっている。その解決には、職場環境の整備や待遇改善、専門性を高める研修事業の充実等が急務であり、併せて福祉の仕事の意義や魅力を広く発信し、新たな人材発掘及び定着に努める必要がある。

また、国は、急増する福祉ニーズに対応し、地域のセーフティネットとして社会福祉法人が持てる力を最大限に発揮することを期待しており、そのためには、社会福祉法人の非課税堅持はもとより、これまで以上の財源が安定的に確保されなければならない。

国及び地方自治体においては、地域共生社会の実現に向けて、社会福祉関係者の意見を十分に取り入れるとともに、国と地方における権限・財源・責任の明確化を基本とした仕組みづくりを進めていただくよう、県内社会福祉関係者の総意をもって強く要望する。

◆実践申し合せ事項

1. 大規模災害への対応強化

近年多発している大規模自然災害に備え、日頃から地域住民・関係機関・団体が協働し、地域福祉活動を基盤とした地域の防災力の向上や被災地支援体制の強化に努めよう。

併せて、施設・事業所利用者が安心・安全に生活を営めるよう、社会福祉法人・施設・事業所における災害対策の強化を図るとともに、被災時の地域の避難拠点機能や施設間相互の連携等の充実に努めよう。

2. 官民一体となった地域共生社会の実現

住民が主体的に地域生活課題を把握し解決に取り組むことができるよう地域力を強化するとともに、新しい地域包括支援体制づくり等を推進し、官民一体となつた地域共生社会の実現に努めよう。

3. 社会福祉法人の地域における

公益的な取組の推進

社会福祉法人は、極めて公益性の高い非営利法人として創設された経緯に鑑み、全ての社会福祉法人の責務である地域における公益的な取組の確実な実施に努めよう。

4. 福祉人材の確保、育成、定着等の

総合的対策の強化

高齢者、障害者、子育て支援等全ての福祉分野における多様な福祉人材の確保・育成・定着のため、労働環境の改善を図るとともに、福祉専門職としての社会的評価の向上に取り組むなど、働きやすく魅力ある職場づくりに努めよう。

5. 福祉サービスの質の向上と

利用者支援に向けた取組の強化

福祉サービスの質の向上と適切なサービス利用を支援するため、福祉サービス利用援助事業や福祉サービス苦情解決事業、福祉サービス第三者評価事業など、総合的な権利擁護体制の推進に努めよう。

6. 共同募金運動の取組強化

民間の地域福祉活動を財政面から支援する共同募金運動の取組を強化し、さらなる推進・拡大に努めよう。



音楽×スポーツ

糸島市の中学校5校の吹奏楽部がそれぞれに素晴らしい演奏を披露しました。各校の合同演奏にのせて、県スポーツ功労者・県民体育大会などの写真が大型スクリーンに上映され、表彰式が行われました。

三世代交流イベント

県内の小学生が描いた「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」コンクールの入賞作品を展示了しました。今年は県内の小学校から5,476点の応募があり、入賞作品は60点でした。子どもたちが自分の大好きなおじいちゃん・おばあちゃんを描いた作品を見て、多くの来場者が笑顔になり、家族で展示作品を鑑賞しながら語り合う姿も見られました。

ステージイベントでは、シニアの方の手話ダンス、元気な子どもたちの演奏やパフォーマンス、いとしまPR隊ラビットによる歌とダンスなど、多彩なステージで子どもからシニアまで多くの世代が一緒に楽しみました。



劇団AFRICA



JBミラクル



Shiny☆Girl

ふれあい市場

県内の障がい者施設、地域の団体や企業、商店街などに協力をいただき、障がい者がつくるまごころ製品や地元の名産品を使用したグルメを販売しました。お目当ての品を買い求める来場者の行列ができるなど大盛況で、昼食を食べながら家族や友達同士で談笑する姿が休憩用のテントを賑わせました。

スポーツ・レクリエーション 体験コーナー

障がい者スポーツの「ビームライフル射撃」をはじめ、ラダーゲッターなどのニュースポーツを子どもから大人まで楽しみながら体験されていました。



そのほか、骨密度や肌年齢などの測定ができる健康福祉コーナーや、今話題の将棋を体験できるコーナー、70歳現役応援センター出張相談会にも多くの方々が参加されました。

福岡県ねんりんスポーツ・文化祭のメインイベントや各種交流大会などを通じて、生きがいづくり・健康づくりを実践するシニアの方々がますます増えることを願っています。



NPO Team Clover
いとしまPR隊 Lovit's!



手話ダンス・サンダー



第18回 福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

主催:福岡県、福岡県ねんりんスポーツ・文化祭

食・ステージ・地域文化で糸島の魅力をアピール!

福岡県では、スポーツや文化活動を通じて高齢者の生きがいづくり・健康づくりを支援すること目的に、「ねんりんスポーツ・文化祭」を開催しています。今年で18回目を迎える今大会のメインイベントを11月23日(金・祝)に糸島市の伊都文化会館で開催しました。

式典

小川 弘毅 実行委員長(福岡県社会福祉協議会会長:写真左)が開式の辞を述べ、主催者代表として大会会長である 小川 洋 福岡県知事(写真中央)がはつらつとした長寿社会づくりについて力強く挨拶しました。また、月形 祐二 糸島市長(写真右)から歓迎のあいさつをいただき、各種表彰やシニア代表による「元気ふくおか宣言」も行われました。



記念講演

講談師の神田 紅さん(写真左)に「大声と笑いで生きる明日への活力」と題して講演をいただきました。

講談の実演を交えつつ、神田 紅さんならではの歯切れの良い名調子で、会場全体を笑いの渦に巻き込みながら、あっという間の60分間でした。



地域文化交流イベント

糸島市シニアクラブ連合会や宗像市シニアクラブ連合会による「地域文化伝承コーナー」ではミニ門松や凧、紙トンボづくりを体験することができました。来場者はお正月に向けて手づくりの門松を楽しそうに作りたり、シニアクラブ連合会の皆さんによる作り方の実演では、その手際の良さに見とれてしまうほどでした。ボランティア団体ひなたぼっこによる「絵手紙体験コーナー」に参加したみなさんは、出来上がった自分だけの作品に思わず笑顔っていました。

「歳末たすけあい運動」が始まりました。

12月1日から31日まで

共同募金運動の一環である「歳末たすけあい運動」には、市区町村の区域ごとに行う「地域歳末たすけあい」と県域で行う「NHK歳末たすけあい（県域）」の2種類があります。

まず、「地域歳末たすけあい」は、地域住民の方々やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉法人、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが、地域で孤立することなく自分らしく、安心して暮らすことができるよう、取り組んでいます。



学童保育で親子餅つき

集めた寄付金は、「支援が必要な方を地域で見守る活動」や「地域の交流事業」の他、地域住民の方々が年末年始を安心して過ごせるための「防災、防犯活動」などにも活用されています。

また、「NHK歳末たすけあい運動（県域）」は、中央共同募金会とNHK等との共催で行われる運動です。

この募金運動では、NHKがテレビ、ラジオを通じた広報を、中央共同募金会と実施主体である福岡県共同募金会が寄付金の受け入れや配分などを寄付金の取り扱いに関する業務を、福岡県社会福祉協議会が使途計画を確認のうえ実施するなど、それぞれ役割を担っています。

福岡県では、お寄せいただいた寄付金を、在宅介護者を支援する活動や児童福祉施設の中学校・高等学校卒業者を対象とした進学・就学準備金等に活用しています。

歳末たすけあい運動へのご協力を
お願いいたします。

スポーツチームの社会貢献活動と共同募金

（日本ラグビーフットボール協会の取組から）

日本ラグビーフットボール協会のジャパンラグビー・トップリーグリーダー会議（各チームのリーダーで構成）では、ラグビーを通じた社会貢献を検討され、トップリーグの選手たちが今年の3月に試合会場（秩父宮ラグビー場）で募金活動を実施されました。集まつたお金は、中央共同募金会に寄託され、これをトップリーグチームが所在する1都7県の共同募金会を通して寄付されることとなりました。

そこで、去る10月24日（水）、福岡市立こども病院（福岡市東区）で子ども達を応援しているボランティア団体（「特定非営利活動法人日本ホスピタルクラウン」と「特定非営利活動法人OnPap」）の活動資金として寄付されました。

福岡市立こども病院（福岡市東区）において贈呈式が行われ、県内に拠点を置く「宗像サニックスブルース」から小杉龍斗選手と金城佑選手が、また、「コカ・コーラレッドスパークス」からは桑水流裕策選手と徳重元気選手が出席して、2

つの団体に目録が贈呈されました。目録を受け取った団体からは、「この寄付金は、私たちの活動の貴重な財源といったします。これからも、病気と闘っている子ども達や保護者の方々が少しでも心身ともに元気になつていただけよう、頑張って活動を続けます。本当にありがとうございました。」とお礼を述べられました。

このイベントは、地域で活動する福祉団体と地域住民との交流を通して、福祉への理解を深めてもらうことを目的に取り組まれているもの。今回は、初めて、市内にある九州情報大学の相撲部員の協力を得ながら、特製ちゃんこの販売を行い、売上金を共同募金に寄付いただきました。「チャリティちゃんこ」を実施。

部員の皆さんは大きな声で呼びかけを行い、来場した地域住民の方々と楽しく会話をしていました。住民の方々からは、「学生さんの頑張る姿に元気をもらいました。美味しいし、チャリティにもなるし、今日は来て良かった」との感想が聞かれました。集まった寄付金は、同市の民間福祉活動に活用されます。

この他、福岡県社会福祉協議会では、11月23日（金）に伊都文化会館（糸島市）で開催した第18回福岡県ねんりんスポーツ・文化祭に「共同募金コーナー」を設置し、企業・団体などからの協賛品を景品とした「チャリティ福引き」や子ども達が自分で作る「縄菓子」の販売を行い、その収益金全額を県共同募金に御寄付いただきました。

（関連記事6頁）



赤い羽根応援大使 募金協力を呼びかけ

去る11月25日（日）、ヤフオクドーム

（福岡市中央区）で、赤い羽根応援大使の福岡ソフトバンクホークス上林誠知選手と石川柊太選手が、ユニフォームの胸に赤い羽根をつけ、共同募金への協力を呼びかけました。これは、「ファンフェスティバル2018」において実施いただいたもので、開始前から多くのファンによる長い列ができるほどの混雑もあり、選手はおよそ10分間、250名の皆様からの寄付金を受け取りながらハイタッチで交流しました。



【問い合わせ先】
福岡県共同募金会
☎ 092(584)33388

「平成30年度ふくおか課題解決応援プロジェクト」（テーマ型募金）が始まります！ テーマは「福岡県内の塾に通えない子どもを0（ゼロ）に！」

平成31年1月1日から3月31日までの3か月間実施

福岡県共同募金会では、共同募金運動の一環として標記プロジェクト（※）を実施します。今年は、下記のとおり募金活動を行いますので、皆様の温かいご協力をお願いします。

※ ふくおか課題解決プロジェクトとは

NPO法人やボランティア団体などが身の回りの地域や社会課題解決のために行う活動を住民の皆様に丁寧に説明しながら、共感や賛同をいただける方から寄付を募り、寄せられた寄付金を共同募金会が団体に活動費として配分することにより課題解決につなげる取組。

特定非営利活動法人いるかねっと（福岡市西区上山門1-2-40）

特定非営利活動法人いるかねっとは、現在、県内各所で無料学習塾を開設し（25か所）、学びたい子ども達に学びの場を提供しています。

解決したい課題（テーマ）は

家庭環境や様々な要因により、十分な教育を受けることが出来ず、進みたい道を閉ざされる子ども達もいます。そんな子ども達のために、現在運営している無料学習塾を県内各所でさらに増設し、学びたい子どもたちに学習の場を提供していきます！

募金方法

本会が作成する専用の振込用紙でお振込みいただきます。本会あてご連絡ください。



学ぶチャンス
を子ども達へ！

振込用紙付チラシのデザイン

ふくふくInfo

平成30年度九州社会就労センター(セルフ)研究大会(福岡大会) 『みんなが主役』夢の実現に向けて~いきいきと働き、くらすために~



記念講演 講師 奥田 知志 氏

去る11月1日(木)・2日(金)に、西鉄グランドホテル(福岡市)において、九州各県の障がい者就労支援事業所の役職員(308名)が一堂に会し、九州社会就労センター(セルフ)研究大会(福岡大会)が開催されました。

全国社会就労センター協議会 阿由葉 寛 会長による基調報告、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 石井 悠久 課長補佐による行政説明の後、5つの研究部会に分かれ、工賃向上に向けた取組や生活介護の充実に向けた取組等について活発な研究討議がなされました。記念講演では、特定非営利活動法人抱樸の奥田 知志 理事長に「助けてと言える社会へーのちの意味が問われる時代にー」をテーマに、目黒児童虐待事件や相模原事件をとおして「いのち」の意味についてご講演いただきました。また、会場ロビーで開催されたセルフセンター福岡によるセルフバザールでは、ケーキやお菓子、さおり織りや木工品など13施設によるたくさんの「まごころ製品」が販売され、賑わいました。

すべての人が夢の実現に向け、いきいきと働き暮らしていくという大会テーマのとおり、本大会での学びが、参加施設のこれから実践につながる有意義な時間となりました。

平成30年度ふくおか“きずな”フェスティバルを開催します

本会では、共に支え合い、共に生きる地域社会の啓発・促進を基本理念に、子育て支援の輪を広げるとともに、ボランティアの多分野交流、人材開拓及び活動促進を図り、本県の地域福祉を推進することを目的にふくおかきずなフェスティバルを開催します。堀尾氏による講演のほか、各種イベント盛り沢山ですので、皆様のご参加をお待ちしております!

開催日時 平成31年2月17日(日)9時40分から

会 場 クローバープラザ(春日市)

講 演 フリークリスター 堀尾 正明 氏

テー マ 「ご近所の底力、あなたの力で街が輝く」



堀尾 正明 氏

【問い合わせ先】

共生社会推進課 ☎ 092(584)3377

2019年版社会福祉手帳&民生委員・児童委員手帳 販売開始!

毎年、社会福祉関係者や民生委員の方々をはじめ、県民の皆様にご好評いただいている社会福祉手帳と民生委員・児童委員手帳の2019年版を販売開始しました。FAXまたはお電話でお申込みください。

◆携帯に便利なポケットサイズ <縦14cm 横8.5cm>

◆見開きカレンダースケジュール(2019年1月~2020年3月)

【主な内容】

社会福祉関係…資料社会福祉関係法律の要点など

福岡県関係資料…県内社会福祉施設、福祉事務所、児童相談所、年金事務所、保健所、地域包括支援センター等の所在地・電話番号、各種相談窓口の連絡先、福岡県の人口・高齢化率等

1冊 各800円(税込)※郵送販売の場合は別途送料がかかります。

【問い合わせ先】

総務課 ☎ 092(584)3377



直接購入する場合は、クローバープラザ 西棟6階 総務課までお越しください。

土日祝日は、クローバープラザ 東棟2階 福祉情報センター(県民サービス部 人材・情報課)窓口で購入できます。

ふくしの仕事を
始めたきっかけは?

中学校の生徒会活動で近くの老人ホームを訪問する機会があったのですが、その時に初めて老人ホームで働く仕事を知ったため、とても印象に残っています。その頃から福祉、特に介護の仕事に興味を持ちはじめました。

現在の担当業務について

ホームを訪問する機会があつたのですが、その時に初めて老人ホームで働く仕事を知ったため、とても印象に残っています。その頃から福祉、特に介護の仕事に興味を持ちはじめました。

大事にしていることは?
仕事のやりがいや、
大事にしていることは?

恵徳会に入職してから介護職員や生相談員と現場での業務が長かったのですが、現在は「なの国」で人事関係や助成金の申請など、法人事務全般を担当しています。介護の現場から事務担当への異動には戸惑いもありましたが、新しい

介護の現場だと、日々の業務の中で入居者とマンツーマンで向きあう場面が

シリーズ キラリ★地域の ふくしひと

Vol.13

このコーナーでは、福岡県内でふくしの仕事に携わる人の声を紹介していきます。今年度は、「ふくおかライフレスキュー事業(※)」参加法人の職員にインタビューを行います。

ふくおかライフレスキュー事業について

あります。私の今の業務ではなかなかそういう機会がありません。業務の成果がすぐには見えづらい部分もあります。が、入居者や職員が当たり前に生活や仕事ができる環境を整えて、施設がきちんと機能するよう支えるのが自分の仕事だと思っています。ですから、やるべきことをきちんと完結させられたときは達成感があります。

また、上司や先輩が職員の意見を汲み取ってくれる職場なので、とても働きやすいです。上司や先輩からしてもらつて良かったことは、自分も後輩にフィードバックするように心がけています。

どんな「ふくしひと」になりたい?

社会福祉関連の制度改革もどんどん進んでいますし、社会福祉法人にも日々変化が求められているため、常にアンテナを張りながら、時代遅れにならないような対応をしていきたいです。

なのは住宅街の中、地域の中心地にある施設です。立地だけでなく、実際に地域のランドマーク的な施設になれるよう、外部の方や地域の方と繋がりを持てるような仕組づくり、ネットワークづくりを進めていきたいです。そして、施設内の環境整備だけではなく、外部に福祉を発信していくのが今の目標ですね。

施設の環境整備で入居者を支えたい

横尾 和暁 氏
よこお かずあき
事業所名: 社会福祉法人 恵徳会
特別養護老人ホームなの国
担当: 事務主任

福岡市(西区)の概要

脊振山系から糸島半島に至る緑の連なりや、博多湾にそぞろ室見川など、豊かな自然環境に恵まれている行政区。
人口: 204,453人、高齢化率: 22.7% (平成30年4月1日現在)

※ふくおかライフレスキュー事業では、福岡県社会福祉法人経営者協議会を中心に、複数法人の連携によって生計困難者等に対する相談支援事業を行っています。

